

デンソー山岳部 創立55周年記念 2014年ピスコ峰報告書

● 山域 南米ペルー アンデス山脈 ピスコ峰 (5752m)

● 日程 2014年 8月 7日～17日

メンバー 町田 修 (隊長) 金子 清 (副隊長・渉外)  
 神戸 和広 (語学・文化・会計) 竹内 幹雄 (写真)  
 藤田 勝啓 (トレーニング) 津田 廣一 (記録)



ピスコ峰をバックに (ベースキャンプより)



ピスコ峰のあるブランカ山群 (登山口は中央のテントマーク)

□8/7(木) 晴れ

■ルート(自宅からアメリカ経由ペルーの首都リマ)

■行動: 8:00 自宅発(豊橋)→10:03 品川→11:57 成田空港→15:55 成田空港を離陸  
→15:26 アトランタ空港到着→17:34 アトランタ空港離陸→23:20 リマ国際空港到着→ホテル(リマ)

OB達の盛大な見送りを受け出発。成田で事前送付の大荷物を受取り、先ずは搭乗手続き。アトランタまで12時間半の缶詰状態。映画を4本程見て、到着しても同じ日だ。何か得した様に思えるが、身体のリズムは狂い出していた。更にリマ行に乗り継いで9時間程。食べて飲んでばかりで1日が過ぎた。リマへ到着、入国審査を通過、一安心して荷物受取へ。ここで大ハプニングが待っていた。待てども、待てども、荷物が出てこない。全員の荷物が出てこないままそのまま終了。荷物の出てこなかった人達がデルタ航空のスタッフと交渉開始した。我々もその列に並ぶ。受取のない荷物が27個放置されたままだ。(前便の人の荷物?) 我々の荷物もアトランタに残っているらしい。ガイドの平岡氏と電話で相談し神戸君中心に交渉。空港前のホテルへ入り最低限の打合せをして眠りについたのは翌日の2時を廻っていた。(記:津田)



<OB 達の見送り、名古屋駅>

□8/8(金) 曇り

■ルート(リマから登山口近郊のカルアス)

■行動: 6:30 起床 8:00 発→11:45~13:35 バランカ(昼食)→16:00 コノコーチャ峠(4050 m)  
→17:30~18:00 ワラスガイド事務所→19:00 カルアス(ホテルエルアブエル EL ABUELO)

睡眠不足のまま起床。専用車で8時出発。順調に走っていると思いきや、交差点前の道路脇で突然ストップ。ギヤが入らないらしい。又、ハプニング? と思いきや、現地のドライバー達はヘッチャラだった。ギヤチェンジ用のゴムベルトを結び直してはめ込むと、ギヤが入って動き出した(以後、カルアスのホテルまで無事だった)。海沿いのバランカのシーフード店で昼食。ペルー料理を楽しむ。コノコーチャ峠も越えて、ワラスの町へ。ガイド事務所でココ茶を御馳走になり、車の中で現地通貨のソーレスへ両替。カルアスのホテルでは、ピスコサワーで乾杯。大御馳走と生演奏を楽しみ1日が終了した。(記:津田)



<フォルクローレを楽しむ>



<お酒のピスコ>

□8/9(土) 曇り時々雪

■ルート(カルアスからウルタ(オリムピカ)峠 往復)

■行動: 7:00 ホテル朝食→8:10 出発(車)→9:35 オリムピカ峠(4800 m)(歩行)→12:02 旧オリムピカ峠(4880 m)→13:10 トンネル前(4700 m)(車)→13:33 ランチタイム(4500 m)→15:15 ホテル



<カルアス>

当初の計画ではヤングヌコ峠(4800m)でショートハイキングをしてテント泊の予定だったが、荷物が空港に届かなかった為、ホテルに連泊となった。ガイドの平岡さんから高度順応の場所をオリムピカ峠に変更すると連絡を受け、車で移動する。シーヤ村で水を補給して峠に向かう。町や村を通り抜ける所は道路が整備されていないように思えたが、そこを抜けるととても走りやすい整備された道だ。やがてオリムピカ峠に到着、高度順応するためのハイキングを開始する。酸素が薄いせいか、すぐ息が切れる。SP02を測定すると血中酸素濃度が77と低い。意識して呼吸してみると少し呼吸が楽になる。辺りの景色は雪でまっ白。時々雪が舞ってくる。旧のオリムピカ峠を目指して進む。ゆっくりと歩くのがいい。2時間半位で到着。ここから峠の下のトンネル前に1時間程かけてゆっくりと下る。ハイキングは終了。車で移動し、見晴らしの良いところでランチタイム。車でホテルに戻り休憩。夜の食事は、鳥の丸焼きを食べに行く。これはペルーの国民食と言われているらしい。夜遅く5人分の荷物が届いた。残り一人分については、レンタルで対処することになった。明日はヤングヌコ谷へ出発だ。(記:竹内)



<雪中ハイキング>



<ランチ>

□8/10(日) 晴れのち曇り

■ルート(カルアスからセポージャパンパ。ラグーナ69 往復)

■行動: 5:45 起床, 6:30 朝食, 7:30 出発, 8:00 ユンガイ, 9:25 チナンコーチャ、オルコンコーチャ、10:15 セポージャパンパ(3900m)、11:45 休憩(4000m)、12:50 昼食(4250m)、14:15 ラグーナ69(4600m)、16:00 休憩(4000m)、17:00 セポージャパンパ(テント)、19:00 夕食、20:00 就寝



<ワスカラン北峰>



<チナンコーチャ>



<ミリミリ>



<キヌア>



<ラグーナ69>



<難攻不落のチャクララフ>

高度順応2日目は「世界遺産」ワスカラン国立公園の氷河湖ラグーナ69を往復する約6時間のハイキング。カルアス市の宿泊ホテルに迎えに来たベンツのマイクロバスで出発。途中ユンガイでミネラルウォーターを購入。国立公園ゲートで1人65ソール(約2300円)を支払う。砂利道悪路に揺られているとワスカラン北峰をバックに美しい湖が見せました。チナンコーチャ(女性の湖)です。紺碧の湖面にメンバーの歓声が上がりました。更に先にはオルコンコーチャ(男性の湖)があり、ラグーナ69はもっと美しいのかと期待が膨らみました。登山口であるヤングヌス谷セポージャパンパまでバス移動して歩き始めました。まずは広い草原でたわむれるロバ、牛、馬とご対面。ガイドのアグリピーナを先頭にゆっくりペースで歩いているとハイカー達が勢いよく抜いていきます。高度計は4000m。小生は呼吸を意識しながら緩慢な動きしかできません。約200mの大滝遠望や初めて見る高山植物(ミリミリという赤い花)を撮影しながら歩いているとランチタイムになる。メニューはキヌアというNASAが宇宙食に検討した栄養価の高い食品でチャーハン風に味付けされパンが添えられていた。満腹になると元気が出てきて徐々に高度順応出来ていく様です。

更に1時間程登ると突然風景が変わりました。ラグーナ69です。見る角度により青から緑に色彩が変わる様な湖面に映し出される氷河。しばしの間、見とれて至福の時を過ごしました。

残念ながらピスコ山頂は雲に隠れて見れません。

下りは快調に歩いて、セポージャパンパのテントに着く頃にはチョコピカルキ、チャクララフが姿を現しました。

(記: 藤田)

□8/11(月) 晴れ

■ルート (セポージャパンパからベースキャンプ)

■行動:

6:30 起床, 7:40 朝食, 8:30 セポージャパンパ(3900m)出発、9:30 休憩 (4100m)、11:00 休憩(4400m)、12:30 ベースキャンプ BC (4600m)着、自己紹介後、13:00 ランチ、19:00 夕食、20:00 就寝



今日は高度を上げてベースキャンプまで。といっても700mしか上がり、高度順応の続きのようなものだ。ロバたちが思いのほか早いペースで追い抜いていった。モレーンの縁の向こうに目指すピスコ峰が見えた。いよいよ気持ちも盛り上がる。歩くペースは通常の半分程度だが、写真を撮るのに下を向いたりすると途端に呼吸が苦しくなる。



<ピスコの先端が見える>

＜早朝のセポージャパンパ＞ ペンカペンカという花で{ペンカ、ペンカ、ペンカ、(ケ



チュア語で恥ずかしいだろ。の意}と言って花を閉じさせて遊ぶのも我々の体力にまだ余裕があるためだ。今日

<ペンカペンカ>

もテントで、昼食、夕食を戴き、贅沢な気分

を楽しむ。就寝前に再び、深呼吸で血中酸素濃度をあげてみる。まだ頭痛はしないが、食欲の無い人が出始めた。高山病に効くというココ茶の所為か、夜中も5回くらい起きてしまう。だんだん睡眠不足になってきた。(記: 神戸)



<ウィルデル、メシアス、ホセ、オクタビオ、ホルヘ、マリオ、ロロ、ケネイ 平岡ガイド、神戸、津田、竹内、町田、金子、藤田、アグリ>

□8/12(火) 晴れ

■ルート (ベースキャンプからハイキャンプ)

■行動

6:30 起床, 8:00 朝食, 9:20 ベースキャンプ(4600m)出発~10:00 モレーン谷への下降地点着~10:10 出発~10:35 下降下部地点着~10:45 出発~11:45 モロコーチャ着~12:00 出発~12:30 ハイキャンプ(4850m)着、13:00 ランチ、18:00 夕食、19:00 就寝



今日はベースキャンプ からハイキャンプへ高度を上げ、明日の ATTACK に備える。今日の行動時間は短いため、朝食 8:00、出発 9:20 と遅い。歩き出して 40 分、モレーン谷への下降点に着く。ここからは急なガラ場の下りになる。全員ヘルメットを着用する。ガイドさんがセットしてくれたロープをたよりに一人ずつ



<ロバは BC まで> 慎重に下る。下降下部の安全地帯で休憩を取る。モレーン谷を横切りモロコーチャへ着く。美しい湖を眺めながら休憩を取る。



ここから約 30 分でハイキャンプに着く。ハイキャンプでは現地の石をテーブルにして食事を取る。ちょっと狭いが快適な食卓だ。明日の出発が早いため、19:00 に就寝する。今日は一つのテントに 3 人で寝る。ちょっと狭いが軽量化のためには仕方が無い。疲れているが、なかなか眠れない。うとうとしながら朝を待つ。(記: 金子)



<モレーン谷へ降りる>

<ハイキャンプ>

<岩のテーブルでランチ>

□8/13(水)

■ルート (ハイキャンプからピスコ山頂往復)

■行動 (神戸隊)

12:20 起床, 1:00 朝食, 2:10 ハイキャンプ HC (4900m) 出発, 3:05-35 氷河舌端休憩、アイゼン、ハーネス着用 (5000m)、4:00 平らな所で休憩 (5150m)、4:55 平らな所で休憩 (5300m)、5:50 休憩 (5400m)、6:45 休憩 (5550m)、7:45 頂上 (5752 m) 着、8:35 後続合流、8:45 写真撮影し出発、9:15 休憩 (5400m)、10:15-30 氷河舌端 (アイゼン、ハーネス脱)、10:50 BC 着、11:45 町田隊 BC 着、ランチ、12:15 竹内隊着 13:20 HC 発、14:40-15:25 モレーン崖で交差する別パーティを待つ。16:05 竹内隊モレーン越え、16:30 BC 着、19:00 夕食、20:00 就寝

今日は最終目的の登頂日。実質半年間の準備であったが、各自が実施してきた体力強化や高度順応トレーニングの成果が現れる場だ。残念だったのは、この日の為に買った、靴、アイゼン、ピッケル、目出帽、保温カバー付きハイドレーションなどの荷物が私だけ間に合わず、レンタル品となったことだけだ。幸い風もなさそうなのでペットボトルでも水は凍らず、目出帽無くても何とかしのげるかなと楽観視していた。(ガイドの平岡さんからは寒くなったら重ね着していけるようにと言われていたので、当初Tシャツ、フリース、ウインドブレーカの3枚だった。薄ダウンとヤッケは別)

まずは17夜の月が煌々と照る中、ハイキャンプからちょっとした急登をゆっくり登り50分ほどで氷河の舌端に着く。あせらずアイゼン付けて、ハーネスをチェックしてもらおうと早速間違っていた。すぐに直して安環のねじを締める。我々は平岡ガイド、津田、神戸、ガイド見習いマリオで組んだ。体調不良の竹内さんは、ガイドのアグリとホセの間に入り、ザックを持ってもらうことになった。残る町田、金子、藤田の3人にガイドのウィルデルが付いた。いよいよ氷河に踏み出す。感触は春山と同じだ。踏み跡はしっかりしている。BCやHCでのペースで進むので体力的には問題ない。頭痛もまったく無い。まもなく稜線に出るが、狭い場所は慎重に、平らなところでは休憩と緩急を付けた。夜明け前だが、周りの6000m峰の影がまるで山岳雑誌の写真コーナーのように見え、中々信じられなかった。夜が開けるとすごいだろうなと期待していたら、稜線右手(東方アマゾン側)に雷光が遠望できた。



<6:30頃(5500m)に東(右手)から雲が、>



<瞬間、稜線越が見えた>



<岩稜帯に戻り、やれやれ>



<竹内さんがHCに帰還>

やがて日の出の時間(6:30頃)となって、日よけ用の帽子、サングラスに換えたら、見る見る雲が覆ってあつという間にガスの中になった。太陽の輪郭は見えるが、晴れてくれない、暖かさを期待したが、あきらめダウンを羽織る。私はまだ園芸手袋を重ねていたの、平岡さんから「そこは我慢するところじゃないでしょ」と諭していただいたので、素直に毛糸の手袋に替えた。休憩が終わり、やがてガスの中にかにもピークな盛り上がりが見えたので、いよいよか!とはしゃいだら、もう一段あった。そこで思いもかけずロープにテンションがかかった。クレバスの顛末は本人の報告による。そこからほんの10分で頂上に着く。ガイド見習いのマリオからココ茶を貰うと暖まる。1時間近く待っていたが晴れもせず、後続も来ないので、平岡さんから下山の提案があった。一旦引きとめようと話すが、安全上仕方無いとあきらめ、下山を開始したところに二番手が到着。漸く記念写真が撮れた。竹内さんはまだだったが、二番手が残ることで我々は下山開始。先ほどのクレバス付近で竹内さんとすれ違った。帰りは行き3倍程度のスピードで下っていった。ただ初めはホワイトアウトで地面と空の区別がつかなかった。人気の山なので踏み跡があって助かったというわけだ。

HCで後続を待ち、昼食をいただくと雪のちらつく天気。テントに入ったり、トイレに行ったりと時間をつぶした。やがて最後に竹内さんが戻ると皆安堵した。

1時間さらに休憩しBCに向かう。モレーンの崖で行きかう隊の通過を待ってもまだ竹内さんは来ない。疲労困憊のようだ。1時間ほどで竹内さんが崖を上がると皆で握手をしあった。30分ほどでBCに戻り、荷物を片付けていると今では不要の私の荷物が届いていた。全員同時ではなかったが、全員登頂ができたのは、ガイドたちのサポートのみならず、本人たちの努力があってこそだと思う。お疲れ様でした。(神戸)

### <クレバスからの生還と登頂（行動記録補足）>

昨夜6時に、シュラフに入る。明日の事を考えているとなかなか寝付けぬ。うとうとしたら、思いだした様にオシッコに行きたくなって目を覚ます。用足しに外へ出るも、あまり寒さは感じない。深呼吸を繰り返して、空気を身体の中に入れては、横になる。この繰り返して、起床時間の1時になった。食事に向かうが、食欲がない。半分程、食べるのが精一杯。「行動食があるさ」と、気を取り直して出発準備。ヘッドランプを点け2時に出発。アグリをトップに後に続く。1時間程歩いて氷河舌端で、ハーネス、アイゼンを着けてアンザイレン。お腹も空かないので、水分補給のみで、先へ進む。ガイドの平岡さん、私、神戸君、マリオの順だ。ザイルがたるまない様に、張り過ぎない様に注意しながら、平岡さんの後に続く。空気の薄さからか、すぐに息が上がる。1時間も歩かない内に1本。のどが異常に乾く。水分補給とアミノ酸を流し込む。標高5000mの壁か？歩き出すも、すぐに息が苦しくなる。周りを見る余裕もなく、“南無、南無”と心の中で唱えながら、ひたすらに足を前に出す。次の休憩で、ビスケットがのどを通らず、ポカリで無理に流し込む。固形物の食料は断念し、今回初めてあつらえた高カロリーゼリーを喉に流し込むと、食道の当たりが、カッと熱くなり、幾分か元気回復。天候の回復を期待したが、一向に回復の兆しがない。周りの景色が見えず、ハ〜ハ〜と喘ぎながらも歩き続ける。標高が高くなるにつれ、歩いているのも寒さを感じ出した。1本取った時に、思いきってアウターを脱いで、防寒着のダウンを中に羽織る。平岡さんは意外そうに思われた様だが、アウターの中に着こまないと役に立たない。アウターを脱いだ時は、非常に寒かったが、歩き出したら寒さは解消。高所登山だと上に重ね着できるものでないと駄目なのかもしれない。風がほとんど吹いてなくて助かった。急登を過ぎ、傾斜も緩くなって、頂上が近いのかもと覚えてきた。平坦になった所を進んでいくと、50cm超のクレバスが前に現れる。結構、大きく開いており、周囲を見ると狭い所に足跡もついている。迷った挙句、少し迂回したところを通過しようとしたら、急に身体が沈む。クレバスへ落下。平岡さんが「後ろへ引いて！」と叫び、神戸君とマリオに引き上げてもらった。平岡さんから「ぼ〜と歩いてたでしょう！」と叱責される。今度は、慎重に大きく開いたクレバスを乗り越える。それから、しばらく、やっと頂上へ着いたと、同時にへたり込んだ。残念ながら頂上もホワイトアウトで、何も見えない。マリオからももらった暖かいココ茶が、この上もなく旨かった。改めて、皆で登頂を喜び合う。他のパーティが登って来ない。仕方なく、下山開始したら町田たちのパーティと遭遇。頂上へ戻り、皆で頂上写真の撮り直し。竹内さんがそろっていないが、我々は、先に下山することにして、頂上を後にした。降りは早い。小さなクレバスも見かけたが、難なく通過して11時前にHCへ到着。全員の到着を待つ。12時半頃に竹内さんもHCへ到着。皆で改めて握手を交わす。軽く昼食を食べて、ゆっくりと休憩後、BCへ。疲労困憊ではあったが、充実した最高の1日であった。すばらしき仲間感謝。（記 津田）



<頂上で一息>



<神戸・津田隊>



ホワイトアウトでもヤッター！  
ピスコ頂上(5752m)

□8/13(水)

■ルート(ハイキャンプからピスコ山頂往復)

■行動(町田隊)

0:30 起床, 1:00 朝食, 2:10 ハイキャンプ HC(4900m) 出発, 3:05-35 氷河取付きアイゼン、ハーネス装着(5000m)、5:10 休憩(5300m)、6:10 休憩(5450m)、7:30 休憩(5400m)、8:20 頂上(5752m) 着、神戸隊合流写真撮影 9:00 竹内隊頂上到着, 写真撮影後出発 11:10 氷河取付き(アイゼン、ハーネス脱)、11:45HC 着、ランチ、12:15 竹内隊着 13:20 HC 発、14:40-15:25 モレーン崖で交差する別パーティを待つ。16:05 竹内隊モレーン越え、16:30 BC 着、19:00 夕食、20:00 就寝

8月13日 夜中の0:30 起床。軽い頭痛はあるが体調はまずまず。空には雲の間に17夜の月が浮かび、風なく寒くはない。インスタントラーメンとクッキーを食べ、2時過ぎにHCを出発。氷河の取付きまでは標高100mほど登山道を進む。氷河取付きからはアイゼン装着とアンザイレン



<唯一アルテソソラフが見えた> <雪の層を重ねた雪稜>

して登る。事前に決めてあったように、パーティは4組に分かれて、我々はガイドのウィルデル、金子、藤田、町田で組んだ。先行パーティのヘッドライトが雪面をゆっくり登っていく。ワンドイとのコルまではジグザグに切られたトレースを慎重に進む。小生はピッケルを雪面に突き刺すたびに前かがみになる為、息が切れた。皆と同じように片手はストックを併用した方が楽だったかなと少し後悔した。高所ではちょっとした動作でも体力のロスにつながる。コルからは長い緩斜面が続く。ウィルデルの歩行リズムは我々に合わせてくれて優しかった。無理のないペースで呼吸を整えるために立ち留まってくれた。5450m地点でそれまで覆っていたガスが晴れて、一瞬だけだがアルテソソラフが見えた。休憩中に男性2人のパーティが抜いて行き、見る見るうちに雪の層を重ねた雪稜の手前を登っていた。よく見ると所々にクレパスが口を開けている。残り標高で300m、行動食と温かいココティーを飲み込んで出発。ホワイトアウトの斜面を規則的に無心で登っていると、一時的に呼吸が楽になり日本の3000m級の山を登っているような錯覚にとらわれた。大きな斜面を乗り越えるとガスの向こうから先行パーティの呼び声が聞こえた。10分程で平坦なピスコ山頂に到着。山頂は雪の状態が毎年変わるので位置は決まって無いとの事。高度計は5745mを示しているが頂上に着いた。先行の神戸、津田、ポーターたちと登頂の感謝と祝福で握手。続いてデンソー山岳部旗を掲げて記念写真を撮る。神戸隊は直ぐに下山開始した。我々は竹内さんを待つこと約30分。ガスの中からガイドのアグリピーナとポーターを前後にして竹内さんが頂上に着く。先ほどと同じセレモニーをした後、我々は下山開始。町田、藤田、金子、ウィルデルの順番で下る。ワンドイのコル付近まで視界不良の中、トレースだけを頼りに下ったトップ町田のルート取りは流石です。感謝。氷河取付きでアイゼンとザイルを外して休憩をしていると竹内さんたちも下ってくるのが見えた。一安心してHCまで下った。(記:藤田)



<竹内隊と頂上で>

□8/14(木) 記録担当 町田

■ルート(BC~セポージャパンパ~ワラス HOTEL)

■行動

6:00 起床(BC 4600m), 7:30 朝食, 9:30 出発, 10:40 ピスコの見える丘, 11:20 セポージャ、パンパ(3850m), 11:35 バスに乗る, 11:50 ランチ(レイクサイド公園), 14:40~15:40 温泉, 16:30 ホテル(3050m)、17:30~ベロニカ宅(パーティ)



<BC 後方のワンドイ>



<BC での最後の朝食>



<ピスコをバックに>

4600mのBCは昨日と違って変り、素晴らしい晴天だ。ホワイトアウトの中で登頂したピスコはその南壁を、西側のワンドイ(6350m)の峻峰をモルゲンロートがピンク色に美しく染めている。この瞬間の眺望だけでもピスコ遠征の価値がある。キャンプ最後の朝食はテーブルを外に出し、ピスコを背景にコック、ケネイのスープをいただく。そしミルクをたっぷりおとしたコーヒーを、ヤングヌコ谷を隔てて南側に聳えるワスカラン(6768m)チョピカルキ(6354m)の勇姿をゆっくり堪能しながら味わう。この時間に衛星telにてjpの留守本部(森さん)に通信を試みる。時差からjpは夜の10:30頃だろうか。上手くつながり登頂と全員無事の報告をする。恒例になっているスタッフ一同との打ち上げセレモニーが始まる。登頂サポートの感謝をこめてチップを手渡し、理解されない言語と承知しつつ「岳人の歌」を合唱、お礼の気持ちに代える。好天登頂への未練は残るが再TRYの余裕はない。ポーターたちはロバに積む荷物のパッキングに忙しく動き、ガイドのウィルデルは次のお客とHCに向かうようだ。我々も下山を開始する。

セポージャ、パンパへは気分も楽で、ピスコを振り返りつつ、周りの山々をカメラに収めつつハイキング気分を下る。パンパには他国の登山隊のキャンプが新しく張られ、放牧されているロバのBCに向けた荷揚げの忙しい一日が始まるのだ。パンパから15分も歩けば迎えるワゴンが待っていた。途中の湖(コナンコーチャ湖)でコックが作る最後のランチを取り、ワラスに向かう。途中温泉(個室風呂:鉄分を含んだ赤褐色のお湯だった)に立ち寄り、山中の垢を落としHOTEL・COLOMBAに落ち着く。その後、ホテルサイドの居酒屋にて久しぶりのビールで祝杯を挙げる。その夜ポーターたちの招待パーティに出かける。ガイド派遣のエージェント社長ベロニカさん宅の庭でパチャマンカ(大地のナベ:石を焼いてその熱で肉や芋を蒸し焼きする)のご馳走になる。流しのエルメルが奏でるペルーの歌と演奏を聴きながらワインとビールに酔い、旅のフィナーレはワラスの夜に終わる。

(記:町田)



<チョピカルキ>



<最後の宴>

□8/15(金)晴れ~8/17(日)晴れ

■行動:ワラス~リマ~アトランタ~成田空港~自宅(刈谷、豊橋)

■8/15(金)7:00朝食→10:00観光→11:00ガイド事務所→12:30食事→14:30発→21:00リマ空港

■8/16(土)1:20リマ国際空港を離陸→9:15アトランタ空港到着→13:52アトランタ空港離陸

■8/17(日)16:12成田空港到着→21:00東京→22:40名古屋(豊橋)~自宅に向かう。



<ワラスを散策>

8/15(金)ワラスのホテルでゆっくりと朝食、町中に繰り出し、観光と買い物。昼は町で食事。まずはビールで乾杯「お疲れさま」。後は空港に向かうだけ。ホッとした気持ちになる。ガイド事務所に寄りワラスからリマまで車で走る。リマ空港に到着したら夜だった。夕食を食べ搭乗手続きをし、日付が変わってからの離陸となった。ここからアトランタまで5000km飛行、8時間程乗って、その間に食事を2回、映画を見ながら時間を過ごす。翌朝の9:15にアト



<ワラス土産物店>

ランタ空港に到着。乗り継ぎで成田空港に向かう。これがまた、11,000kmの長旅だ。時差の関係もあり、13:52離陸したが成田空港に着いたのは日付が変わって8/17(日)16:12に到着。時差ボケで眠くてたまらない。夕食に寿司を食し、成田から電車で東京へ。新幹線で名古屋(豊橋)へ。何故か東京~名古屋間が短く感じた。そして名古屋から、各自が自宅に帰った。(記:竹内)